最先端有機元素化学①:最新論文からのトピックス

A Phosphetane Catalyzes Deoxygenative Condensation of α -Keto Esters and Carboxylic Acids via P^{III}/P^V=O Redox Cycling

Zhao, W.; Yan, P. K.; Radosevich, A. T., J. Am. Chem. Soc. 2015, 137, 616-619.

Abstract: A small-ring phosphacycle is found to catalyze the deoxygenative condensation of α -keto esters and carboxylic acids. The reaction provides a chemoselective catalytic synthesis of α -acyloxy ester products with good functional group compatibility. Based on both stoichiometric and catalytic mechanistic experiments, the reaction is proposed to proceed via catalytic P^{III}/P^V=O cycling. The importance of ring strain in the phosphacyclic catalyst is substantiated by an observed temperature-dependent product selectivity effect. The results point to an inherent distinction in design criteria for organophosphorus-based catalysts operating via P^{III}/P^V=O redox cycling as opposed to Lewis base (nucleophilic) catalysis.



Prof. Radosevich Pennsylvania State University Postdoc w. Dan Nocera@MIT Ph.D. in 2007 w. Dean Toste@UC Berkeley Graduated U. Notre Dame

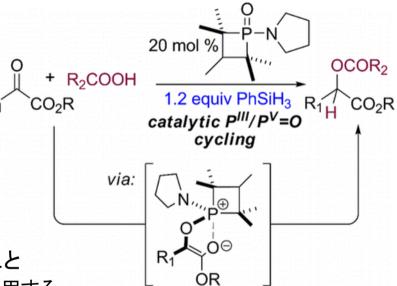
タイトルとTOCグラフィックから読み取れること ・ホスフェタン(Pを含んだ四員環)が触媒として作用する

・3価と5価オキシドで酸化還元サイクルを形成

・α-ケトエステル+カルボン酸の縮合反応

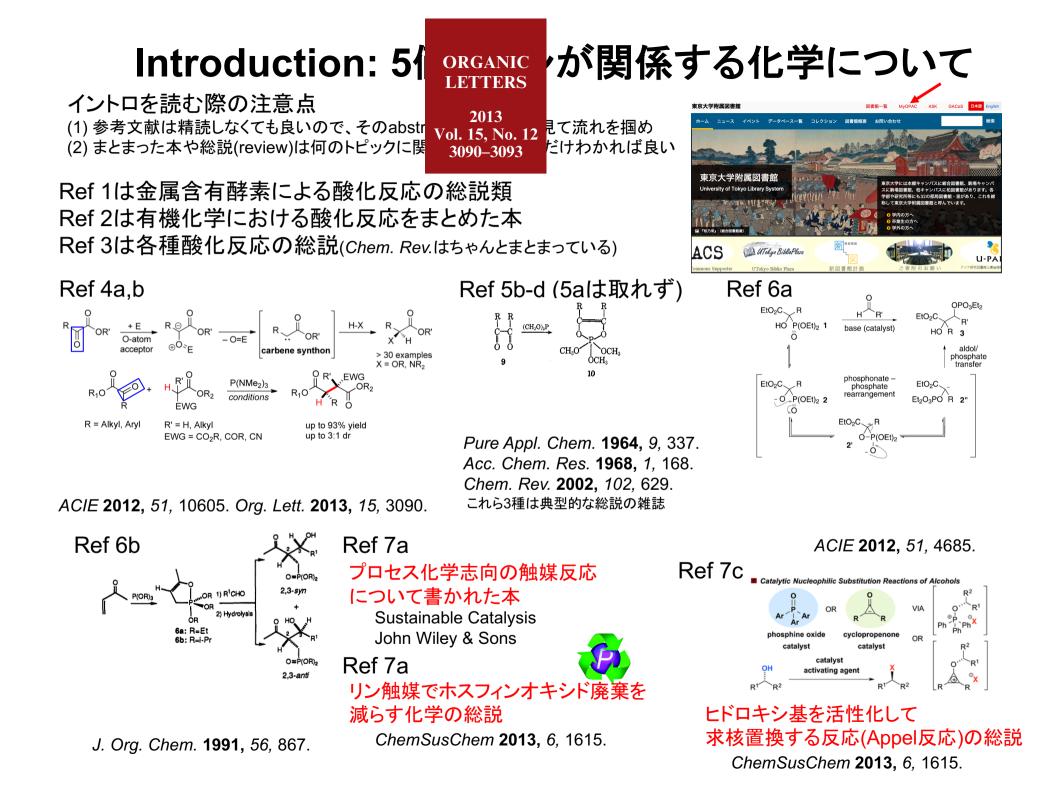
Abstractからさらに読み取れること

- ・生成するのはα-アシロキシエステル、官能基許容性は高い
- ・量論および触媒反応の比較より反応はPIII/PV=Oサイクルで進行
- ・選択性の温度依存性によりリン含有環の環歪みが重要だと判明
- ・酸化還元サイクルのリン触媒は従来のリン求核触媒と異なる

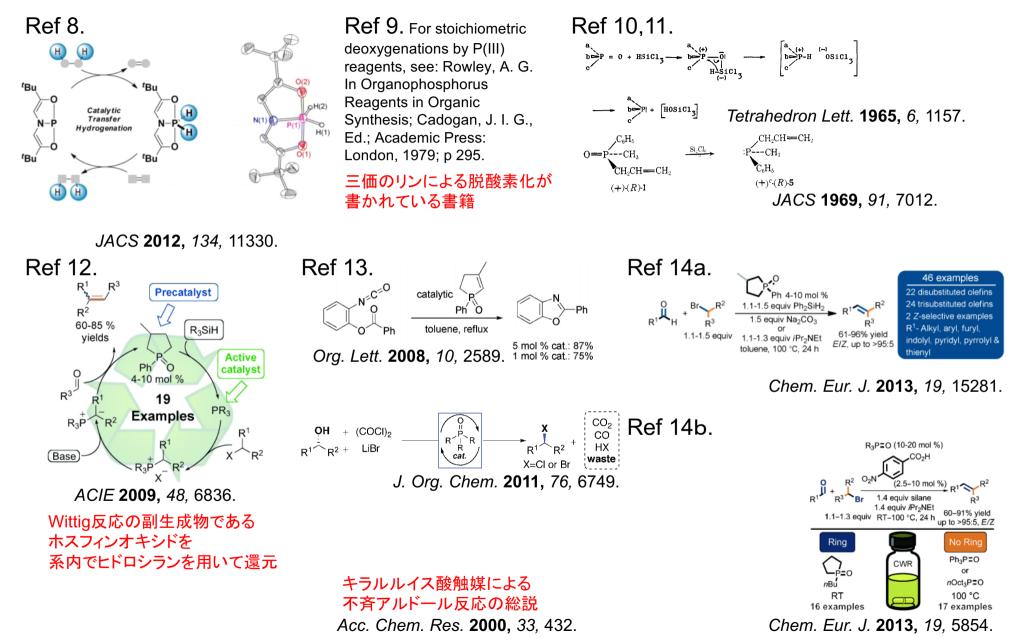


有機元素化学特論

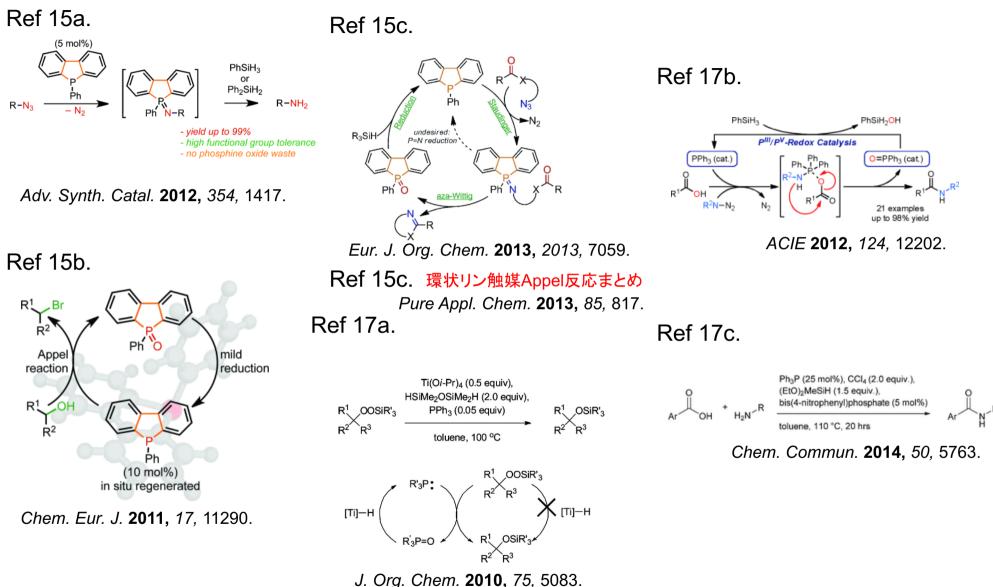
第7回



Introduction 2: リンの酸化還元や触媒利用

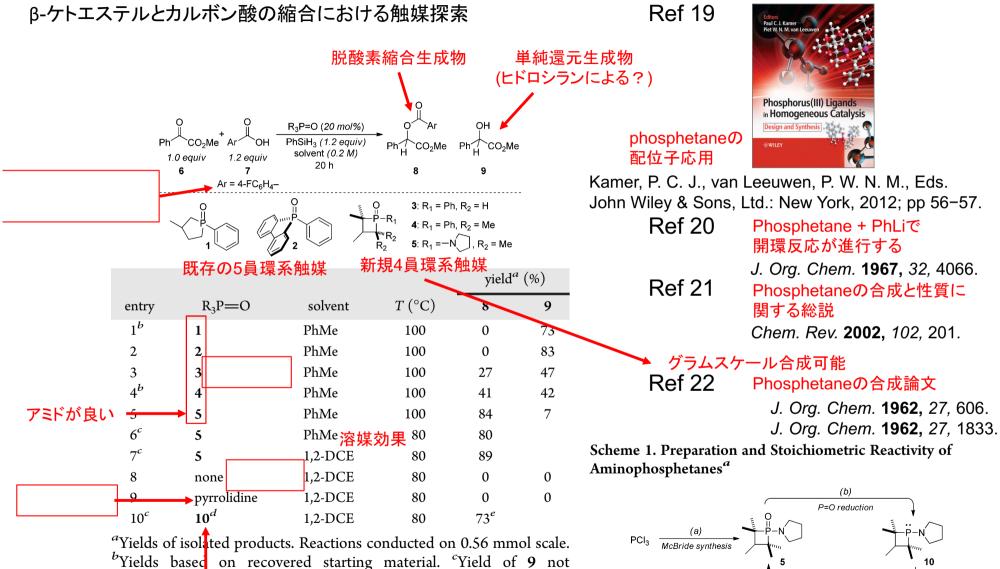


Introduction 3: リンの酸化還元を伴う触媒反応



この論文を読む上での鍵 →どうやってリンの酸化還元を使って 新しい触媒を構築するのか

This Work 1: Catalyst Screening



determined. ^dSee Scheme 1 for structure. ^eSee ref 25.

^{*a*}Reagents and conditions: (a) *i*. 2,4,4-trimethyl-2-pentene, AlCl₃; *ii*. pyrrolidine, 81% for two steps. (b) PhSiH₃, PhMe, rt, 67%. (c) PhC(O)CO₂Me (6), p-FC₆CH₄CO₂H (7), PhMe, 50 °C, 92%.

(C)

deoxygenative condensation

This Work 2: Substrate Scope

Table 2. Examples of Deoxygenative Condensation with Varying Carboxylic Acid Components^a

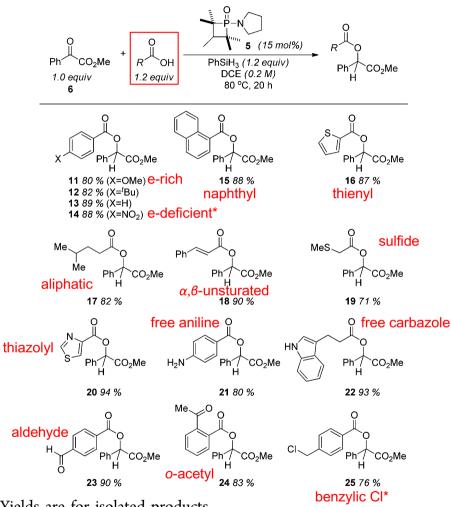
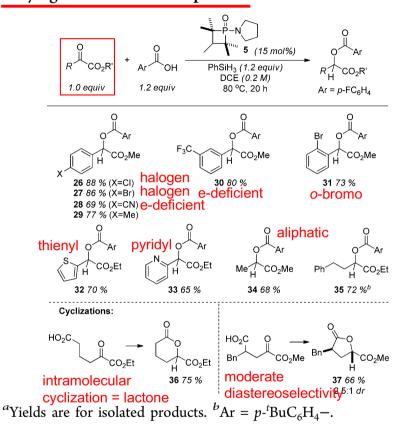


Table 3. Examples of Deoxygenative Condensation with Varying α -Keto Ester Components^{*a*}

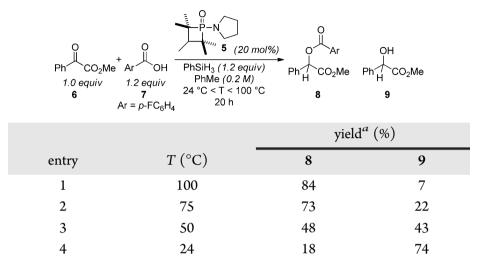


^aYields are for isolated products.

functional group with * could react with phosphine

This Work 3: Temperature-Dependent Selectivity

Table 4. Dependence of Product Selectivity on Temperature



^aYields are for isolated products.

低温 = 目的物低収率·単純還元生成物増加

※9は8が生成する前の中間体ではない 理由(1)

理由(2)

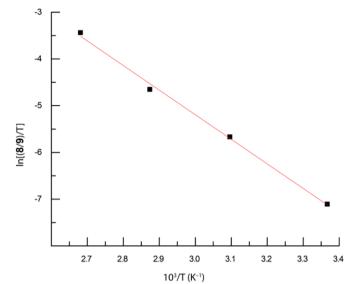
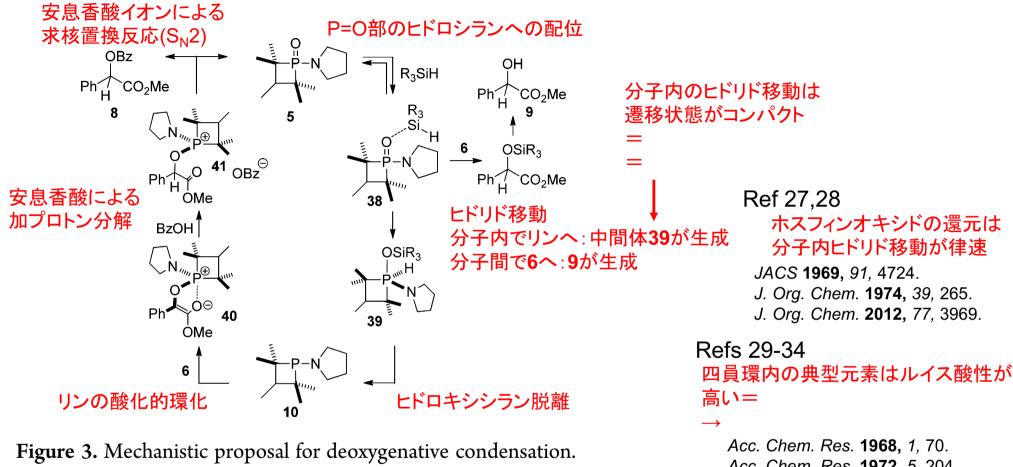


Figure 2. Correlation between product selectivity and temperature over the range 24 °C < T < 100 °C (see Table 4). Linear fit: $\ln[(8/9)/T] = -5.26T^{-1} + 10.59$, $R^2 = 0.995$.

isokinetic temperature T_{iso} = 48 ℃ (8および9の生成速度が同じ温度)

differential activation parameters $\Delta\Delta H^{\pm} = \pm 10.5(9) \text{ kcal/mol}$ $\Delta\Delta S^{\pm} = -26(6) \text{ cal/mol} \cdot \text{K}$

This Work 4: Proposed Mechanism



Acc. Chem. Res. **1972**, *5*, 204. JACS **1981**, *103*, 1234. JACS **1992**, *114*, 7922. J. Org. Chem. **1981**, *46*, 1049. Acc. Chem. Res. **2008**, *41*, 1486. JACS **2000**, *122*, 8587. Organometallics **1990**, *9*, 3015. JACS **2004**, *126*, 14.

Other Experiments and Next Approach

他の実験により何かわかるか?

次のアプローチはどうすべきか? → そのために何を調べてみる?

最後に:レポート課題について

s-またはp-ブロック元素の化合物の化学に関する2016年以降の論文を読み、 (論文はこれらの原子が直接反応や物性に関わるところを観測しているものを選んでください 例:典型元素の酸化還元・典型元素の関わる光電子物性・典型元素触媒、など) 以下の点に関して講義資料と同様、A4用紙数枚程度にWORDファイルでまとめてPDFとし、 WORDおよびPDFの両方を2017/10/14(土)までに山下へメールで提出 makoto@oec.chembio.nagoya-u.ac.jp 以下の各項目は後ろに行けば行くほど重要です

 ・論文の背景においてどのような研究がなされてきたか?(イントロ参考文献の半分以上はまとめよう) TOCの絵の貼り付け+論文内容の一言説明の形でまとめよ。総説等は図不要。入手不可な文献は省略可。
・この論文において得られた結果は何か?論文に出てくる結果を全て示せ。 直訳ではなく講義プリントのように図を最大限活用して簡潔に説明せよ。
・得られた結果を説明するための他の実験を提案し、 それで何がわかるかを理由と共に説明せよ。参考文献があると尚良い。
・自分ならこの論文をどう改良してさらに次のアプローチを考えるか? その目的およびそれが可能な根拠を明確に示して説明せよ。 またそのアプローチに対して必要な他の事実を他の論文や

SciFinderから探して実現可能性に関して論ぜよ。

ただし他の人と論文が重なってはダメです。

読むべき論文を決定した時点で山下へメールして重複の有無を確認すること。 メール本文に論文タイトルを書き、該当PDFを添付してメールを送って下さい。 山下のOKが出てからレポート作成を開始してください。 早く確認すればするほど論文を読む時間は増えるし、重複の可能性も少ない。 ラボの同級生・先輩・後輩・教員とのディスカッションを推奨しますが

一般的に自分の力で書ききることが最も自分の身になります。

成績評価はレポート内容の論理性・妥当性を絶対評価でつけます (=全員Aも全員Eもありうる) 採点済の過去レポートを山下研ウェブサイトから見ることができます